

平成26年度後学期 短期大学部（船橋校舎）「授業改善のためのアンケート」集計結果

I 集計結果について

	専門教育科目			3 学科共通科目		
	建築	総合	化学	言語教育	共通基礎教育	教養教育
【Q1】授業は全体として満足できるものである。	4.2	3.9	4.0	4.1	3.8	4.2
【Q2】授業のすすめ方が適切で、わかりやすい。	4.1	3.8	4.0	4.1	3.8	4.2
【Q3】授業はシラバスに沿って行われている。	4.2	4.1	4.2	4.2	4.1	4.4
【Q4】よく準備して、熱意を持って授業を行っている。	4.2	4.0	4.1	4.1	3.9	4.3
【Q5】学生の反応や理解度を考慮しながら授業を行っている。	4.1	3.8	3.9	4.2	3.6	4.1
【Q6】授業が静粛に運ぶよう配慮している。	4.1	4.0	4.1	4.2	4.0	4.0
【Q7】授業は明瞭で聞き取りやすい。	4.2	3.9	4.1	4.2	4.0	4.3
【Q8】板書やプロジェクタなどの書き方・使い方は適切である。	4.1	3.9	4.1	4.1	3.9	4.2
【Q9】授業の難易度は適切である。	4.0	3.5	3.8	3.9	3.5	4.0
【Q10】この授業科目を1週（回）受けるに当たり、授業時間以外で学修にどのくらい取り組みましたか。	2.9	2.5	2.8	2.3	2.5	2.0
【Q11】現時点での授業への出席率。	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.8
【Q12】この科目を学ぶための必要な基礎知識を持っている。	3.7	3.3	3.6	3.7	3.3	3.6

※表の数字は学生が評価した以下の選択肢の平均値（小数点以下第2位四捨五入）

凡例 ①そう思わない ②あまり思わない ③普通 ④ややそう思う ⑤そう思う

ただし、Q10は ①取り組んでいない ②1時間未満 ③1～2時間 ④2～3時間 ⑤3時間以上

Q11は、①30%未満 ②30%以上 ③50%以上 ④70%以上 ⑤90%以上

II 集計結果についてのコメント

① 建築・生活デザイン学科

Q1～Q9の各平均スコアがすべて4点以上で概ね良好であるが、さらに5点に近づけるべく継続的な授業改善を行う。アンケート結果を科目別に詳細に分析すると、大きく評価の低い科目は見当たらないが、数は少ないものの低い評価をしている学生も散見される。このような意見も真摯に受け止めるとともに、アンケートの自由記述欄にある感想や具体的な要望を参考に改善方策を検討する。

② ものづくり・サイエンス総合学科

Q1～8の平均値は4点前後で概ね良好である。しかし、若干評価を下げた項目(Q2, Q5)については、1年次の初学者対応など改善する必要がある。Q9, Q10及びQ12は、3.5, 2.5及び3.3とあまり高くなく、改善を要する。
Q9は、学科内の5つの専門分野でそれぞれ評価結果を分析し、改善方策を検討する。Q10は、分野ごとに評価結果を分析し、当該授業科目担当教員に適切な学習課題を提供するよう要請する。また、Q12は、授業科目間の連携強化の方策を検討する。

③ 生命・物質化学科

アンケート結果からはQ5, Q9, Q12の値が若干低い傾向があり、基礎的な知識や学力がつくような取り組みが必要ではないかと思われる。また、Q10も低いと考えている。
対策として、当学科ではグループ担任制などを利用した学生への個別指導を重視しており、学科事務室では常に質問に対応できるよう、必ず教員が常駐している。
さらに、学生が利用できる高校の教科書や問題集を用意し、学生が利用、自習のできるようにするとともに、自習などに利用できる部屋も確保している。

④ 一般教育

3学科共通科目について全体的には、教員関連の項目で学生の満足度は平均4点前後と、まずまずであると言える。ただ、共通基礎教育(数学・物理系科目)については全体より若干低く、特にQ5, 9が3.5前後となっている。これらは理工系大学の基幹科目であり、補充教育的アプローチに加え、「授業内容をわかりやすくする」ため、一層の改善に取り組む必要がある。